

## ▼レスタミンコーワ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】ジフェンヒドラミン塩酸塩 (U) diphenhydramine hydrochloride 【分類】抗ヒスタミン剤

【単位】▼10mg/錠

【常用量】1回30～50mg

【用法】分2～3

【透析患者への投与方法】透析患者の投与方法に言及した文献はないが、おそらく減量の必要はないと思われる (5)

データが少ないので注意して適用すべき (Nguyen T, et al: Am J Ther 2019 PMID: 31513022)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし (12)

【特徴】H1 受容体においてヒスタミンと競合することにより抗ヒスタミン作用を現す。またムスカリン受容体を介してアセチルコリンの中枢での阻害効果を持つ (抗ムスカリン作用)。抗ヒスタミン作用の他、抗ジスキネジー作用、鎮吐作用、鎮咳作用、抗眩暈作用、催眠鎮静作用も有する。抗ヒスタミン剤の中で最も眠気が強い。

【主な副作用・毒性】めまい、眠気、倦怠感、発疹、頭痛、神経過敏、悪心・嘔吐、下痢、動悸、頭重感、眩暈、口渴など

【吸収】良好 (U)

【F】72% (13)

【tmax】1～4hr (U) 2～3hr (13)

【代謝】肝 (いくらかは腎) の P450 で代謝 (U)

【排泄】代謝物として腎から排泄される (U) 尿中未変化体排泄率 1.9% (13) 2% (12) 【CL】6.2mL/min/kg、加齢により低下 (13)

【t1/2】1～4hr (U) 8.5hr, 肝硬変・加齢により延長 (13) 5.3～11.7hr (12)

【蛋白結合率】98～99% (U) 78%, 肝硬変により低下 (13) 80% (12)

【Vd】4.5L/kg (13) 3.3～6.8L/kg (12)

【MW】291.82

【透析性】除去率 28% (Lam YW, et al: Clin Pharmacokinet 32: 30-57,1997) 【透析 CL】108.7mL/min (Lam YW, et al: Clin Pharmacokinet 32: 30-57,1997)

【TDM のポイント】TDM の対象にならない

【相互作用】中枢神経抑制剤と併用注意 (1) 抗コリン剤との併用で抗コリン作用が増強 (1)

【効果持続時間】6～8hr (U)

【禁忌】緑内障、前立腺の閉塞性疾患がある患者には禁忌

【更新日】20200310

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。